

# 高校生が考えるまちづくり

～市長からのミッション～



研究の成果をプレゼンテーション

南丹高校3年生が取り組む「総合的な学習の時間」課題研究Ⅱ。これは地域との連携、地域の活性化を目的とした調査・研究を年間通じて行う授業です。

昨年5月、生徒たちの研究の参考指針とするため、桂川市長から自身のキャリア、また亀岡市の現状と課題についての話とともに、人間科学分野の生徒へ「ミッ

ション」として研究テーマを提示しました。テーマは「まだ誰も知らない亀岡の『とっておき』を見つけよう!」「亀岡のPVを作ってみよう!」「Open the shutter! 亀岡の商店街!」「京都市を訪れる観光客を亀岡に引き込むには?」「選挙の投票率を上げるには?」の5つ。

このほど、約半年間に行たる研究・調査の結果を市長へ示す「市長からのミッション」に対する提言会が開催され、生徒からは「インターネットを使った選挙投票」や「外国人を対象にした体験型旅行プラン」などの提言がプレゼンテーションされました。生徒たちの熱の入った研究



外国人観光客にアンケート調査(京都市嵐山)

# 「火災ゼロ」への決意を新たに

～亀岡市消防出初式を開催～

1月6日、市消防団や市自主防災会など消防関係者1,183人が一堂に会する「亀岡市消防出初式」を開催しました。



大きな歓声に包まれた一斉放水

亀岡中学校体育館で行った式典では、桂川市長らが消防・防災分野で功績のあった個人や団体を表彰。また、今年度から市長表彰に新たに従事表彰を設け、親子、兄弟、姉妹、三世代以上において消防団活動に従事している人の功績をたたえ、13人に表彰状を贈呈しました。

式典の後、会場から南郷公園までの市巾着隊を実施。市内の幼稚園・保育園の子どもたちで結成する幼年消防クラブも参加し、園児たちは元気いっぱいに行進を繰り広げ、



巾着隊の様子

式に華を添えました。

最後は、南郷公園において市消防団全19分団と亀岡消防署のはしご車による「火災ゼロ」と1年の安全・安心を願って一斉放水を実施。見応えのある力強い放水のアーチに、見物に訪れた皆さんから歓声が上がりました。

## ～バスの便利な活用術～ スマホを使って 最寄りのバス停を調べよう!

現在、亀岡市内で運行しているコミュニティバス、ふるさとバス、京阪京都交通バスはお持ちのスマートフォンを使って簡単に最寄りのバス停からの時刻や路線を調べることができます。待ち時間を短く快適に、バスに乗って出かけてみましょう!



実際に調べてみよう!

- ①地図アプリ「グーグルマップ」を起動
  - ②画面の「経路」をタップ
  - ③「公共交通」をタップ
- 現在位置から最寄りのバス停が表示され、各行き先と次に来るバスの時刻が表示されます。

©2019Google,ZENRIN

※同機能を使用するためには、グーグルアカウントの作成とログインが必要です。  
※災害など臨時ダイヤはグーグルマップには反映されません。  
※機種によって画面表示が異なる場合があります。

この方法を使うと、運行事業者のホームページを個別に確認する必要がなく、最寄りのバス停も自動的に調べることができます。そのほかにも、行きたい場所を目的地欄に入力すれば、電車やバスなどの公共交通手段を使った移動方法を調べることもできます。スマートフォンを使って公共交通を賢く利用しましょう。

### 第三百九十八回

### 明智光秀

文化財めぐり ①

### 明智光秀と「亀山」

私たちの住むまちは、いつから亀岡と呼ばれたのでしょうか。亀岡は、明治2(1869)年まで亀山と呼ばれていました。しかし、当時の藩主松平信正が同年6月19日に東京に呼ばれ、知藩事の職に任命される際に、政府より「亀岡と改称せよ」と命じられたのが始まりといわれています。亀岡の名前は明治政府によって決められたと言えらるでしょう。

では「亀山」と呼ばれたのはいつからでしょうか。諸説ありますが、一次史料(※)による限り、明智光秀が丹波を攻めたころという説がもっとも有力です。これは、亀山の地名が初めて出てくる史料が、天正5(1577)年の明智光秀書状であることに基づき見解で、亀山の名付け親は光秀ではないかと考える専門家もいます。



▲明智光秀公肖像(本徳寺所蔵)

明智光秀が、私たちが住むまの元々の名付け親だとしたら、今以上に親近感がわくのではないのでしょうか。2020年大河ドラマに決まった、明智光秀を主人公とした「麒麟がくる」。明智光秀関連の史料には、亀山のほかに保津や余部といった地名や、宮川や別院出身の武士が出てきます。本シリーズでは、これら亀岡市に関係する場所や人物と明智光秀との関係について、一次史料に基づいて、歴史的事実を描いていきたいと思います。

※一次史料：同時代に作成され、使われた史料  
【典拠】「形原松平家譜」、正月晦日付明智光秀書状(大東急記念文庫所蔵)